

- 1) 発表形式：口述
- 2) カテゴリ：17
- 3) 地域包括ケアシステムにおける看護小規模多機能型居宅介護の役割
- 4) 筆頭演者：大下 麻里江（介護支援専門員）
- 5) 職種：介護支援専門員
- 6) 所属施設：(株) アール・ケア 看護小規模多機能型居宅介護 ハーヴィスプラス

7) 抄録

(背景) 地域包括ケアシステムでは、要介護状態となっても地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する事を目的としている。地域包括ケアシステムが推進される中、高齢者は地域の中で暮らしていく事が求められているが、医療的ケアが必要な方や持病を抱えながら一人暮らしをされている方など様々な理由から地域で暮らせなくなっている方も多くなっている。

(方法) 医療的ケアが必要な方、持病があり一人暮らしをされている方など、看多機を利用しながらどのように在宅生活を送られているのか幾つか事例を紹介させて頂く。

(結果・考察) 看多機を利用される前は、サービスの内容やケアマネジャーが変更になる事で不安が強かったとの声も聞かれていた。実際に利用が始まると、通い・泊まり・訪問介護・訪問看護を柔軟に組み合わせながら在宅生活を継続出来ている方が多い。もちろん看多機でできる事に限界はあるし、マッチしない方がいらっしやることも事実である。看護・介護・ケアマネが一つの事業所にいる事でご利用者の状態やご家族の要望に細やかに迅速に対応できる事は看多機の大きな魅力である。